

米国交通体験記

この度、所用で米国・ワシントン、ニューヨークを訪問する機会に恵まれました。その際に利用した交通機関・施設について、印象に残ったところをご紹介しますと思います。

□ ダレス国際空港

○ 変わった乗り物…

ダレス国際空港は、アクション映画「ダイ・ハード2」の舞台ともなったワシントンの空の玄関。ここで、「モービルラウンジ」という一風変わった乗り物に遭遇しました。いわば、上下動するリフト付きの大型のバス。空港のターミナル間を移動するシャトルバスなのですが、建物の2階から2階まで運んでくれます。通常のバスと異なり、前方から乗降車するためか、とても不思議な感覚に襲われました。



モービルラウンジ

開港当初は「動くロビー」をコンセプトに、乗客をターミナルで乗せて、駐機場まで乗客を運び、飛行機へ直接搭乗してもらう仕組みだったとの由。しかしながら、コスト高などにより、現在は、他の空港と同様、建物から飛行機へ乗り込む形に改められ、この様な運用がされているようです。

○ 空港へのアクセス

現在は、空港から市内へのアクセスは高速道路での移動となっており、4~50分といったところです。タクシーに乗りながら、車がないと不便だな…と思っていたところ、いたるところで



高速道路の中央に地下鉄(地上部)を建設中

工事が。運転手さんに話を聞くと、ワシントンの都心部から地下鉄の延伸工事が進められているとのこと。そう言えば、先日伺った台北(台湾)でも、郊外への国際空港への鉄道や高速道路の建設を進めていたことを思い出し、各国の国際競争力強化にかける努力を垣間見た気がしました。

□ ワシントン 地下鉄

○ 切符は+1ドル

ワシントン内での移動は、主に地下鉄を利用しました。「スマートリップカード」というICカード乗車券が導入されており、滞在初日に早速購入。その後は手放せないものとなりました。少し驚きだったのは、通常の切符を購入すると、1枚につき、運賃に1ドル増しされてしまう点。運賃は乗車の距離や時間帯で異なるものの2ドル前後なので、かなり割高な印象を受けます。運行者としてもIC乗車券への移行を強力に推進しているのでしょう。

○ 自動運転

ワシントンの地下鉄は運行頻度も比較的高く、路線網も充実しています。地元のガイドさんによると治安も良いようです。車両は乗務員は1名で、列車の運行はコンピュータ制御とのことで自動化も進んでいますが、個人的には、加速・減速が急で、乗り心地にやや難を感じました。なお、近々に日本の某大手メーカー製の車両へ更新されるようです。



ワシントンの地下鉄駅・・・暗いです

□ アムトラック

鉄路でニューヨークとの間を往復しました。アムトラックという連邦政府が出資する公社が運営しています。早い列車は3時間強のものもあるようですが、東京～名古屋間とほぼ同じ距離なので、新幹線と比べるとかなりのんびりした旅です。

乗車までは、やや不安なところもあったのですが、事前にウェブで予約し、持参したバーコード付きの伝票を機械にかざすだけで、簡単に切符を手に入れることができました。

ここでは、乗車までの慌ただしさにびっくりしてしまいました。途中駅にあたるニューヨークからの往路では、発車時刻の10分程度前に電光掲示板へ乗り場が表示されると、皆、我先にと乗り場に向かいます。待つのと、走るのとで乗車までにかかなり疲れてしまいました。



電光掲示板と乗り場の表示を待つ人々

一方、車内の方は、座席間の幅も広く、座席も重厚な作りとなっており、かなり快適でした。途中、ワシントン郊外の駅で、信号トラブルのため、運行がストップするハプニングにも遭遇しましたが、車掌さんが、車内をまわり、丁寧に状況を説明されていたのも好印象でした。

※ 本文はあくまで個人的な体験・感想です。